

# EX (絶滅)

食肉目 イタチ科

## ニホンカワウソ (本州以南亜種)

*Lutra lutra nippon* Imaizumi & Yoshiyuki, 1989

英名: Japanese river otter

カテゴリー判定基準: ②

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
—	CR	CR

日本固有亜種

ユーラシアカワウソ (*Lutra lutra*) の日本本土 (本州以南) 亜種で、形態的・遺伝的特徴から別種とする意見もある。かつては各地の河川の中、下流部に広く生息していたが、過度の捕獲、生息環境の改変、汚染などにより激減し、最近の生息確認情報がなく、すでに絶滅したと判断される。

The Japanese river otter (*Lutra lutra nippon*) is endemic to Honshu, Shikoku and Kyushu, but extinct due to overhunting, habitat destruction, accidental drowning in fishing nets, and killing to protect cultured fish. The last known habitat was in the southwestern part of Shikoku. The last reliable record was obtained for Ehime Prefecture in 1975 and for Kochi Prefecture in 1979.

### 基礎情報

■**形態** 背中が黒褐色、腹面は淡褐色。頭は扁平で、耳介は小さく端が丸い。首は頭と同じ太さで長い胴に続いている。尾は横に扁平で、基部が太く胴との境は明瞭でない。手足は短く指の間にみずかきがある。頭胴長55~58cm、尾長35~56cm、体重4.2~11.5kg。オスはメスよりも大きい。ユーラシアカワウソよりも尾が長く、本亜種の尾率が60~70%に対し、ユーラシアカワウソでは53~60%。

■**分布域** 本州、四国、九州のほか壱岐、対馬にも過去の分布情報がある。ユーラシアカワウソは、北極圏を除くユーラシア大陸および北アフリカに分布する。本亜種の分布域の変化についての情報はきわめて乏しい。狩猟統計のある1927年までは、本州の各地方、四国、九州で捕獲記録がある。本州での最後の生息確認は、1949年の奈良県吉野郡下北山村、1950年の山形県朝日山地出谷川、1954年の和歌山県友ヶ島海岸であった。以降の記録はすべて四国に限定される。したがって、この間に全国的に地域的絶滅が進行したと思われる。四国内でも、香川県では1948年に瀬戸内海で漁網にかかった3頭が唯一の生息記録である。徳島県では、1977年の

磔死体、78年の足跡と糞発見以外の生息記録はない。その他の記録はすべて愛媛県と高知県で得られている。愛媛県の瀬戸内海側では1965年に発見されたオス、宇和海側では1975年のメスがそれぞれ最後の記録である。高知県では、1977年に東部の室戸岬で確認されたものを除くと、愛媛県境に近い南西部から中部まで、それも海岸部での記録がほとんどである。最後の生息地と考えられている高知県南西部でも、須崎市における1979年の目撃例以降の確実な記録はない。

■**生息環境** 河川の中下流域、海岸域に生息していた。

■**生活史** 夜行性とされるが、日中もしばしば活動する。主として魚や甲殻類を食べる。草むらや岩の隙間で休息する。ユーラシアカワウソの妊娠期間は約2ヶ月、一度に2~5仔を産む。

### 絶滅に至った経緯とその要因

明治期に始まった個体数の減少は、毛皮目的の過剰な捕獲が原因と考えられる。その後生息に影響を及ぼした要因としては、森林伐採 (11) による水資源の枯渇化と不安定化、河川の護岸工事 (13) による水生生物生息地の減少、農業

や家庭排水、工場排水による水質の悪化(31)、それによる河川の餌生物の大幅な減少が考えられる。1950年以降の愛媛県での個体数減少の原因は、道路建設(24)と岩石砂利採集による生息環境の破壊と農薬の多用が推測されている。1945年から1978年までの公式死亡記録126例の内訳をみると、死亡原因は、モクズガニをとるためのカニ籠、磯建網を含む漁具による溺死が39例、タイ、ハマチ養殖用生け簀の魚の食害を防ぐための撲殺、銚子による殺害が38例と多い。このような死亡は、すでにきわめて小さくなった個体群を回復不能にする大きな打撃となったと思われる。

### 特記事項

1928年(昭和3年)に狩猟対象から除かれ、捕獲禁止となった。その後、1964年に国の天然記念物、翌65年に特別天然記念物に指定された。1994年度に環境庁による調査が行われているが、生存は確認されていない。個体数の変遷に関するデータはないが、1928年(昭和3年)に捕獲禁止となっていることから、明治期以降、

減少傾向は顕著だったと思われる。1923年(大正12年)から1927年(昭和2年)まで5年間の狩猟による捕獲数(北海道を除く)は、57、111、49、30、46頭である。ミトコンドリアDNAチトクロームb領域224bpの塩基配列をユーラシアカワウソとの間で比較したところ、7~9ヶ所の置換が確認されており、大陸産と遺伝的差異があることがわかっている。

### 参考文献

- 安藤元一, 2008. ニホンカワウソ. 東京大学出版会, 233pp.  
今泉吉晴, 1973. カワウソ最後の生息地を探る. アニマ, 2: 2-16.  
Imaizumi, Y. and M. Yoshiyuki, 1989. Taxonomic status of the Japanese otter (Carnivore, Mustelidae), with a description of a new species. Bull. Natn. Sci. Mus., Ser. (A), 15(3): 177-188.  
高知新聞企業出版部(編), 1997. ニホンカワウソやーい!ー高知のカワウソ読本ー. 高知新聞社, 高知. 287pp.  
町田吉彦, 1998. ニホンカワウソ. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック, pp. 252-253. 日本水産資源保護協会, 東京.  
Suzuki, T., S. Yuasa and Y. Machida, 1996. Phylogenetic position of the Japanese river otter *Lutra nippon* inferred from the nucleotide sequence of 224bp of the mitochondrial cytochrome b gene. Zool. Sci., 13: 621-626.

執筆者: 石井信夫(東京女子大学)